



JCNA 2007年度テーマ

いのちの光・寄り添う看護

「みことばは人となり、私たちのうちに宿られた」ヨハネ1の4

神は言われた“光あれ”、こうして光があった。
神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。

光が大地を包むとき
いのちは芽生え、天に向かってその葉を広げる。光なくしていのちは動かず、輝かない。

窓に射しこむ朝のひかりは、病める者の顔に、新たな希望を呼び起こす。
ナースの訪れは、朝の光にもまして、喜びのおとずれ。

幼な子が母の顔をさがすように、ナースのほほえみは、母のそのぬくもり。
そのまなざしの奥に輝くのは、愛と希望の光。

傷つき、病み、老いるいのちに、寄り添うナースは、
癒しと励ましと慰めを、日ごとに運ぶ、平和の使者。この世をおおう闇に、輝く光。

すべてのものはみことばによって造られた。
みことばのうちにいのちがあった。
このいのちは人間の光であった。
みことばは人となり、
わたしたちのうちに宿られた。

本部顧問司祭 川上誠 作

✠ 新年明けましておめでとうございます。新たな思いで新年をお迎えのことと思います。
新年度のテーマを本部で考えまして、顧問司祭にイメージを作詩していただきました。各支部、各会員
におかれましては、それぞれにイメージ豊かに、ナースの使命に専念するよすがとなれば幸いです。
平和の光が私たちを導いてくださるようにお祈りしながら、本年もどうぞよろしく願いいたします。
(薄島和子)

✠ 新年 あけましておめでとうございます。

2006年は名古屋で本部主催による全国大会を開催いたしましたところ、会員みなさまのご協力をい
ただいて、成功裡に終えることができました。ありがとうございます。

新年は、「ひかり」に導かれ、「寄り添う看護」に向けてさらなる努力をしたいとおもいます。
より一層のご支援とご協力をお願いいたします。
(Sr.沢禮子)

巻 初春のお喜びを申し上げます。

第48回 JCNA 全国大会は、会員みな様のご協力を得て充実した大会となりましたことを心より感謝とお礼を申し上げます

第49回の鹿児島大会においても会員みな様のご協力をよろしく願いいたします。

(清水美春)

巻 新年明けましておめでとうございます。

昨年は色々とお世話になりました。本年も宜しく願いいたします。

世界中で起きている戦争が1日も早くなくなり、平和な世界になれますように！

そして、私達にできることを少しずつ行って平和への貢献ができますように。

では良いお年を！！

(河野小夜子)

巻 数えれば365日というこの一年をどんなふうにご過ごしていきたいかを思い描いて、「ことしはパステルカラーかな？」と。仕事上、毎日が在宅で過ごすお年寄りの方々の関わりです。その方の人生が語られるたび、私の心の宝箱のなかに宝ものが増えていく、そして感動をいただきます。皆様に幸多かれ！

カト看のためにひとつでもお役に立てること、今年も頑張りますのでよろしくお願いいたします。

(清水みどり)

巻 明けましておめでとうございます。

JCNAの灯の1本になれるようお手伝いできればと思っています。

会費の納入ご協力ありがとうございます。

(事務局 伯川雅美)

JCNA 2007年度 行事予定

・ 第51回 JCNA 全国総会

2007年 5月26日(土曜日) 午前9時30分から午後3時00分まで

名古屋・南山学園研修センター

引き続き 午後3時00分より午後5時00分まで

日本カトリック医師会・日本カトリック医療施設協会・JCNA 三者の連絡会の予定

・ 第49回 JCNA 全国大会 (鹿児島)

2007年11月 9日(金曜日)から 10日(土曜日)まで

鹿児島純心女子大学 江角ホール (鹿児島県薩摩川内市)

第48回JCNA全国大会（名古屋）盛況裡に開催

澄み切った青空の下、名古屋・カトリック南山教会 マリア館ホールを主会場に全国大会が開催されました。テーマは「いのちの旅・寄り添う看護」です。急に「本部担当」となった今回の大会です。南山教会と南山学園研修センターのご協力の下、名古屋支部会員を始め、聖霊病院の看護部長を先頭に14名がご参加くださり、受付、案内、おやつのお世話など様々なところにご協力をいただきました。ありがとうございました。以下は大会の主なものをプログラム順に紹介いたします。（末頁にカトリック新聞の記事を掲載いたしましたのでご覧ください。）

☆ ご来賓の方々のお祝辞より

- ・ 日本カトリック医師会会長 石島武一先生が東京からご出席くださり、お祝辞をいただきました。先生は、「カト看全国大会には東京、横浜、今回の名古屋で三回目になるが、非常に感銘をうけるのは、大勢の会員が熱心に討議されること」。さらに「1959年から一回も途絶えることなく今日に至っていることも素晴らしい」とおっしゃってくださいました。

- ・ 聖霊会 理事長の Sr.川原 恵さまからは、地元のカトリック医療施設病院としてのお祝辞をいただきました。（代理 外村 新さま）

今回のテーマ「いのちの旅・寄り添う看護」から濱口吉隆神父様のご著書を引用され「健康であっても、病気になっても、人とのつながりと支援なしに生きていけないこと、病気の治療も健康回復も、医師と患者と神の共同作業であること」と紹介してくださいました。

- ・ 聖霊病院 院長 水野秀朗 先生（夕べの集いにご参加くださいました）

現代は厳冬の医療事情の真っ只中、どのように変化していくかわからないが聖霊病院は急性期病院として頑張っている。しかし在宅で家族を扱ってくれるところがなくなってきている。こういう時こそカトリック医療に携わるものが団結しあってカトリック精神に基づいた看護をして欲しい。さらにこういう大会を通して若い人が具体的にカトリック精神というものを伝え、わかって欲しい」と激励されました。

☆ 第一講演 作家 城 麗子氏(JCNA会員) テーマ「いのちの旅・寄り添う看護」

第一部で、ご自分の自殺を望んだ高校時代から受洗へ導かれたこと。大学を看護系に変更し、ナースとしての体験から、「告知の問題、延命治療、美しい死、そして生命倫理の問題への取り組み、臍帯血運動へ」と導かれるままに関わってこられた半生を述べられました。

第二部ではハンセン氏病を病まれ、苛酷な差別と偏見の時代に生きた方が、何度も自殺を図りながら、ある方との出会いで信仰に導かれ、老衰で帰天されるまでを追いながら信仰にいきる人生に転換する道すじをしめされました。

その他に聖フランシスコ、聖ビルジタの祈り、ナイチンゲールや現代のマザー・テレサの言葉からカトリック者としての愛と正義による戦争のない時代への使命をとられました。

☆ 第二講演 医学博士 渡邊 正医師による基調講演 テーマ「寄り添う看護と医療」

先生は外科医として名古屋大学病院、愛知県がんセンター、米国留学と常に最先端のがん治療の現場を歩かれた方ですが、息を引き取る土壇場でも強心剤を用い、死は無意味で終りというお考えで、一分一秒でも死を先に延ばすのが医師の使命と確信されていた方でしたが、「最期のとき、患者にそっと寄り添う医師がいてもいい」と、先端医療から終末医療への転身をされた方です。

講演の中では「実のお母様の死」「忘れられない死」などから「死を前にしたからこそ見えてくる、生きる意味」、そして「死は終りではない」に至るまでの過程と現在の緩和ケア病棟の問題を、数多くのスライドを使ってお話くださいました。

先生は「人には身体的、心理的、感情的、情緒的、霊的な痛みがあり、トータルしてケアをすることが大切であること」を、現場で献身される医師のメッセージとして私たちの心に深く届けてくださいました。

・第一講演、第二講演ともに大会誌に掲載して会員の皆様にお届けできるよう準備しておりますのでご期待ください。

☆ 顧問司祭会議

大会に参加された8名の本部・支部顧問司祭が南山教会司祭館の会議室で会合をもちました。

短時間でしたが、担当する支部の問題点、JCNAとして教会の宣教のために何が大切で、どのように進めたらよいかなどが話し合わせ、時間が足りない程でした。司祭方のJCNAへの愛と期待が伝わる貴重な会合でした。

☆ 会員発表 6題 大会第2日目

総合司会 堀 容子 名古屋大学医学部保健学科 (JCNA名古屋支部会員)

- (1) 「患者の自己実現に向けての当院の取り組み」 慈生会病院 本間拓子
- (2) 「新生児を看取るとき、私たちにできること」 聖霊病院 NICU 病棟小嶋紀子
- (3) 「その人らしく生きられるように」 光ヶ丘スペルマン病院 ホスピス病棟 赤井聖子
- (4) 「あるカトリック女子校における性教育の試み」 聖カピタニオ女子高等学校 宮本信代
- (5) 「日本における家族の保健医療～高齢者を囲む現状と課題～」 深沢地域包括支援センター 清水みどり
- (6) 「ブラジル南東部の出産事情」 浜松医科大学 医学部 看護学科 久保田君枝

☆ 大会ミサ 主司式 名古屋教区長 野村純一 司教(日本カトリック司教協議会会長)

大会に参加された8名の本部・支部顧問司祭とともに南山教会大聖堂で行われたミサで、司教様が説教をなさいました。

今回の大会の中心的キーワードは、「寄り添う」ということであつたのではないかと思います。「寄り

添う」とは、場合によっては「苦しみを共に担うこと」を意味しています。しかしそれは口で言うほどやさしいことではなく、大変なことです。看護の現場で働いておられる方々はその意味では大変な務めをしてくださっておられます。ときには耐えられなくなることもあるのではないかと思います。病気の人は24時間看護を必要としています。看護師さんたちは白衣の天使と昔言われていました。まさに病む人たちにとってはやさしい看護師さんは天使に見えるでしょう。人間の身体的、精神的、霊的な健康は互いに切り離されることなく繋がっています。病んでいる人たちの霊的健康ということは日本ではあまりよく理解されていないかも知れません。また信仰をもって初めて可能になるのかも知れません。医療技術が日々進歩し、医療制度が変わっていく中であって、専門家としてさまざまな研修が求められます。体の患部だけの看護で大変なところに精神的、霊的に寄り添うことはさらに大変なことでしょう。医師、看護師さんだけではなく、看護にはいろいろな人たちの取り組みも欠かせなくなります。

タイで行われたアジア司教会議から帰国されたばかりの司教様は、会員発表の最後の「ブラジルの出産事情」を聞かれ、国際的な諸問題があり、その研修と援助が必要なこともとられました。

☆ 閉会式 挨拶 Sr.沢 禮子

C I C I A M S会長のアン・フェルリンデさんの言葉

「イエスよ病人が私を見ると、彼らがあなたに気づきますように。」というこの言葉がカトリックナースと一般のナースとの違いではないでしょうか。私達カトリックナースはどこに違いがあるのかというとき、私達が関わっていく人と私達と毎日一緒にいてくださるこのキリストの愛、別の言葉で言えば、福音です。それが何らかの形で伝わるように、そのような意識化、祈り、信仰があるところが違うのではないかと思います。病人にとってそこになにか違いを感じると思います。

☆ 大会の感想文 (東京支部ニューズレターより)

- ・大会第一日目の基調講演、大会二日目の会員発表ともに、先生方の熱意と会場の皆様の関心の高さが感じられ、いのちの重さ、看護者の責務を感じました。
- ・城氏の講演で本気で死ぬことが出来れば、本気で生きることが出来るという宗教的変革「神様助けてください」と祈られたということに感銘を受けました。
- ・医師である渡邊氏の講演では母親が胃癌の発病から手術、闘病生活、帰天されるまでの経過を通しての体験談、学び、気づきを分かち合ってくださいました。患者が癌であることは家族全体が癌を持っていることを意味しますという一言の重みを感じました。患者の悩む力、苦しむ力を引き出し支えていくケアが大切だと話されたことが印象に残りました。
- ・“ブラジル人の出産事情”の中で「ブラジル人の出産の90%近くが帝王切開または無痛分娩で国民性として出産の痛みを我慢する文化を持たない」という研究結果から痛みということを改めて考えさせられました。
- ・会場にも、ご馳走にも、アトラクションにも心配りを感じました。暖かく迎え入れてくださいました名古屋の皆様、大会本部の皆様にご心よりお礼申し上げます。

巻 2006年度 第2回 第3回 第4回 本部役員会報告

第2回 (2006. 10. 1名古屋)

- ・ 名古屋大会プログラムの最終確認、参加者の件、会員発表、司教ミサ典礼などに、名古屋支部会員の協力を受けて当日の役割分担などを検討し、決定いたしました。
- ・ 第50回JCNA全国総会における「東京・金沢支部提案」について、各支部に資料を送付し、次年度の総会で討議するため、配布資料の検討をいたしました。10月3日付で各支部長宛に発送済み
- ・ 次期鹿児島大会の日時決定と、支部の準備状況で、すでにプログラム草案ができている報告あり。
- ・ 日本カトリック医師会の会長 石島先生からの申し出による「三協会の会合」について、JCNAとしての考え方を話し合い、医師会側と初回の会合を12月東京での本部役員会の時間内に設定することを提案するをいたしました。

第3回 (2006. 10. 26名古屋)

翌日の全国大会の資料づくりと準備に多くの名古屋支部会員のご協力をいただきました。

- ・ 大会準備終了後に「三協会の会合」についての考え方のまとめを行い、この会合のために準備する資料の確認、どの点をお聞きしたいか、これまでの三者の歴史の見直し、などを行いました。

第4回 (2006. 12. 10 東京)

- ・ 名古屋大会終了報告で、会計決算、バザー収益の報告の後、大会誌の内容について検討しました。
- ・ 鹿児島大会について、プログラムの一部変更の可能性について打診している旨の報告がありました。
- ・ 2008年度の全国大会開催地候補についての動きなどの報告がありました。
- ・ 次年度のJCNA年間テーマを川上顧問司祭に試案をお願いし、前記のように決まりました。
- ・ CICIAMS アジア地区事務局よりJCNAのホームページについての問い合わせが以前からあり、これに応えるべく検討していましたが、経費の問題、翻訳の問題など多岐にわたる問題があり、名古屋支部のホームページをベースに会長のところで検討することにいたしました。
- ・ 「JCNA 通信No.4」で、この日午後から実施される日本カトリック医師会との初会合の主旨及び内容を、会員の皆さんにお伝えすることに決めました。

巻 第51回 JCNA 全国総会のお知らせ

次の全国総会は2007年5月26日(土曜日) 9時30分から 17時00分まで、名古屋・南山学園研修センターにおいて行います。各支部長(又は代理)のご出席をお願いいたします。議題等についてのご案内は2月以降にお知らせいたします。

巻 鹿児島大会で「会員発表」 募集!!

各支部長さま宛のクリスマスカードでお知らせしていますように、大会の2日目にプログラムに会員発表を組み入れました。発表希望者は2月28日までに鹿児島支部に発表の骨子のみをお知らせください。後日、支部から詳細についてお知らせします。

連絡先 ☎890-0081 鹿児島市唐湊2丁目10番2号 レデンプトール宣教修道女会内

日本カトリック看護協会鹿児島支部 支部長 松村 精子 さま宛

巻 2007年度会費納入のお願い

会員の皆様の会費納入により、次年度の予算を計上いたします。可能な限り、次年度2007年度の本部会費の納入を2007年3月末日まで納入くださるようお願いいたします。

正会員 4,000円 準会員(学生)2,000円です。各支部の担当者の方は「名簿・住所」を本部事務局あてに送付してください。会費は「郵便振替」で送金をお願いいたします。

- ・名簿 送付先 ☎177-0031 東京都練馬区三原台3-13-6 伯川雅美様方
JCNA事務局 宛 (電話 03-3922-2307)
- ・会費 郵便振替 00190-4-49392 日本カトリック看護協会

✎ 事務局よりのお知らせ

名古屋大会でご講演くださいました城 麗子先生のご著書に残部がございます。この収益はすべてJCNA本部会計に入れさせていただきます。定価より割引がございますのでぜひお求めをお願いいたします。本部事務局へお問合せください。(次回の全国総会の会場でも販売いたします。) 残部のあるもの=「白血病はこわくない」「死を乗り越えて」「樅の木」「月下美人」「灯」

✎ 日本カトリック医師会代表者との会合のご報告

ご出席くださった先生方のお名前と所属

- 石島 武一 氏 日本カトリック医師会々長 (桜町病院 院長)
- 和田 恵美子 氏 日本カトリック医師会副会長 (東京女子医大教授)
- 竹内 正也 氏 前日本カトリック医師会々長 (全国公私病院連盟会長)
- 佐野 純 氏 日本カトリック医師会東京支部・支部長 (聖オディリアホーム理事長)

主な意見

- ・三協会(日本カトリック医師会・日本カトリック医療施設協会・JCNA)を、ひとつにすることは考えていない。
- ・ともにお互いの協会にとってためになることをやっていきたい。
- ・すべてのカトリック医療従事者がまとまって何かができる日を夢見ている。
- ・何か見つけて各協会のなかで現在のPRをできたらよい。
- ・若い人が不足していることはどちらも同じ。
若い人の興味があるものをカト看と医師会と一緒にやってほしい。
- ・医療協と三者で連絡協議会という組織的なものをつくる。
この会の会長などの必要はなく、その年の世話役をするというような意味でよい。
- ・年に2,3回会合ができればよいのでは。まず、始めた方がよい。
情報交換、連絡などがしやすい形を考える。
- ・これまでの(カトリック医療の)発展は、カトリックの看護学校によるところが大きい。今はそこから離れて弱くなった。この点はJCNAから看護大学に働きかけていくのが適切だし、期待したい。
- ・地方ではメンバーが集まるのが大変。医師会も教区ごとの設置であったが、現実的な移動実情にあわせて独立させたりして編成している。

本部役員会として以下のことを申し合わせました。

- ・5月26日のJCNA総会の後、三者の話し合いの機会を設ける。
- ・JCNA各支部長の皆さんに医師会と医療協との話し合いを聞いていただくことで、三者の連絡会についての理解を深くしていただく。